

彫刻

応募点数	15点	招待作品	8点
入賞点数	7点	展示点数	23点
入選点数	8点	◎は移動展出品作品	

(総評) 今年は、昨年以上に若い方々の出品が多くみられ、豊かな感性の作品に恵まれました。

県の進める文化芸術次世代育成支援事業の一環である高校生諸君の素焼き（テラコッタ）作品の展示が継続されていることも喜びであります。

出品者の抱いたテーマは、自然界にある魅力ある形に着想を得たもの、現代の風潮に感じる疑問、生活のひとこまに感じるもの等々幅広く作者の心の内を垣間見る思いがします。

彫刻の造形素材と技法との関わりにおいても、作者はそれぞれ努力と工夫を重ねておられ、今後一層の発想の独自性、技術の練磨、造形意図の明確さの追求を期待します。
(文責 山岡 弘迪)

知事賞 ◎

やくもた 八雲立つ ～翔る～

すとうとよはる 周藤豊治 (松江市)

天空を雄大に駆け巡るイメージが託された人物像です。頭部の表現は、肩から突き出た四角の断面状の形態に集約され、見る人の自由な空想を広げてくれています。ポイントとなる手足の先端には、平らな鉄板を苦勞して組み合わせて丸みのある形を生み出しています。

体全体の軸は大きく左に傾けてあり、ダイナミックで躍動感のある全体像になっています。この左右に大きく広がった両腕は、波打ち、はためく翼のようで、リズムカルな浮遊感を生んでいます。福光石を浮かせた工夫と併せて見ると、四角な重い台座が雲のような軽さを帯びて見える不思議さを秘めています。

重い素材でありながら、軽やかな雄大さをたたえた秀作です。

(文責 山岡 弘迪)

金賞 ◎

ゆい 結

こんだひろき 近田裕喜 (安来市)

作者は多年にわたって石彫に取組まれています。今展でも、硬い御影石をくり抜いて、二つのものが縄のように絡み合って結びつきながら、空間を意識させる作品になっています。表面が荒々しい部分と滑らかな部分とが、効果的な配置で処理されていて、左右対称の形態ながら、うごめくような生命感のある作品になっています。

(文責 山岡 弘迪)

銀賞 ④

とくべつ 特別

ひとくわた
一鍬田 さつき (広島県)

年老いた自分の祖父母の仲睦まじい様子が、素焼き(テラコッタ)技法のあたたかみのある風合いで表現されています。二人の立ち姿が、形の単純化により、見る人の気持ちを誘いやすい一つの塊にまとめられています。故郷から離れて、家族への思いを強くした気持ちが伝わってくる作品です。(文責 山岡 弘迪)

銀賞 ④

Family III

お ぞえ のぼる
尾 添 昇 (出雲市)

母なる海という言葉を想起させる、深くあたたかな印象の作品です。何かのイメージを託した、貝のような物体を抱き寄せようとする形態から、母親の大きな愛情を感じさせます。石膏を磨き上げた滑らかな表面処理が、みずみずしい透明感を与えています。(文責 山岡 弘迪)

銅賞 ④

そこはかたなく

た の
田 野 さつき (松江市)

何かの形を明確に見せるのではなく、心の中に思い浮かべる形態や動きを念頭に置いて、見る人の自由な想像にゆだねるような表現です。石膏や樹脂の異素材と二つの台座を効果的に配置して、滑らかな表面と自然な丸みで、物体同士が会話するかのよう響きあう作品となっています。(文責 山岡 弘迪)

銅賞 ④

ぐんせい 群生

たち ぼな わたる
立 花 航 (益田市)

生物のような骨のような物体がによきによきと地上から生まれようとする、意表をつく表現は人の目を引きまします。意外性のある表現では成功しています。立体造形としての量感とか構成の追求を期待します。(文責 山岡 弘迪)

銅賞 ④

くず 崩レル

かき だ やす とし
柿 田 康 利 (松江市)

自然と人とのかかわりを追求し、厳しく、力強い人の生き方を表現した作品です。材質の異なる木材を一本の寄木材とし、チェーンソーで削りだした荒々しい表現が、自然な厳しさを強調した魅力のある作品となっています。(文責 山岡 弘迪)

入 選

題 名	氏 名	備 考
shell - shelter	高 橋 由美子 (出雲市)	
地藏菩薩像	奥 村 和 久 (松江市)	
初夏	高 橋 美 加 (出雲市)	
頭	原 雪希菜 (出雲市)	
ねころび	曾 田 雪 菜 (出雲市)	
白無垢	陰 山 鈴 華 (出雲市)	
bubble	中 尾 妃奈子 (松江市)	
超高齢化の日本	稲 村 守 泰 (松江市)	

招 待

題 名	氏 名	備 考
夏の日	荒 木 文 夫 (松江市)	
stand by	山 岡 弘 廸 (出雲市)	
⑩ 移 夢路	伊 藤 眞 美 (出雲市)	
objet 融合	清 水 洋 一 (安来市)	
⑩ 移 かたおもひ	田 中 俊 晞 (江津市)	
⑩ 移 夏去りて	井 上 博 (松江市)	
⑩ 移 二人	佐 藤 信 光 (安来市)	
双	松 本 健 志 (出雲市)	